

# FOCUS

追いかける。大学生。

神戸大・2年  
田淵 公蔵 さん

活発シニア大学生

33年間教育の現場に立ち続けた校長先生が再び大学の門をたたき、学問の世界に飛び込んだ。2回目の大学生生活を送っているのは田淵公蔵さん(神戸大・2年)。1951年生まれの61歳。20代の学生に交じて田淵さんがもう一度学ぶ理由とは。



## 生きがい求め、再び大学へ

多くの人にとって大学時代は最後の学生生活。「最後だから」と羽目を外して遊ぶ学生も少なくないだろう。しかし田淵さんはそんな学生とは全く異なる。元小学校校長という異色の経歴を持つ田淵さんは、今日も知の欲求が赴くまま、積極的に勉強を続けている。

田淵さんが大学入学という選択を意図し始めたのは定年退職まであと数年となったとき。学校へボランティアに来た高齢者との会話のことだった。「退職したら趣味や旅行の時間ができてバラダイスだと思ってるやろ。そんな

## 校長先生→大学生

ん甘いで、2カ月もしたら『今日は何しよ』って困る日が来るぞ」と思ってもみなかったことを言われた。

「退職したら何をしよう」。急に現実を突き付けられ、悩んだ末に浮かんた答えは、シニアのための環境作りだった。仕事に打ち込んできたシニアは退職後、生きがいを失ってしまう人が少なくない。「会話が無くなり、家庭での居場所が無くなって、最後にはボケてしまう」。そんなシニアを生み出したくなかった。もしかしたら自分もそうなるかもしれない。だからこそ元気なシニアたちが、社会に積極的に関わることのできるような環境を作りたかった。そのために必要だったのが、更なる学び、本を読むだけでは得られないような深い知識だった。

大学に行くことを決めた田淵さんは、家族に内緒で受験勉強を始めた。試験として課されるものの中でも、久々に触れる英語は中学校の英文法からやり直し。それでも努力

の末、神戸大発達科学部に合格した。家族に合格を伝えるとき、受験することすら知らなかった家族はただ驚き、呆気にとられていたそうだ。

現在田淵さんは2年生。滋賀県の自宅から片道2時間かけて通学している。休日は専ら農作業をしているので勉強時間も限られる。試験期間には、通学中にスマートフォンでレポートを仕上げることもあったそうだ。多くの学生と同様に休講はうれしいが、「支えてくれる家族への申し訳なさや通学の苦勞を考えると複雑な気分になる」と田淵さん。

20代の同級生と同じように、今は具体的に何を突き詰めて学んでいくかを模索する毎日だ。夢は変わらず「シニアが社会ともしっかりと関わりを持つ、世の中がもっと面白くなるようなシステムを作ること」。田淵さんは今日も、自分よりも若い先生から教える受けながら目標に向かってまっ進している。

(聞き手=竹内勇人)

### FOCUSは

神戸大学ニューズネット委員会  
同志社大学 PRESS 編集部  
NEWS 立命通信社  
関学新月通信社  
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部  
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部  
京都女子大学藤花通信編集部  
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

## UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) [info@unn-news.com](mailto:info@unn-news.com)